

# 心の病癒やす「不思議なレストラン」

## 楽しく働きながら笑顔

東京都調布市にある「クッキングハウス」。心の病を抱える人が楽しく働き、笑顔を取り戻す。「不思議なレストラン」と呼ぶ人も。ここを開いた松浦幸子さん(64)が11日、川崎市で開かれるシンポジウムに参加する。悩んでいる人に「ひとりじゃない」と伝えたいと話す。

松浦さんは1987年、調布市に食事作りで交流する場をつくった。きっかけは、ソーシャルワーカーとして統合失調症などで長く閉鎖病棟に入院している人たちに出会ったこと。社会復帰できずにいる人たちと「町の中で一緒に



### 運営者・松浦さん、川崎で11日シンポ

生活したい」という思いが募った。「みんなと一緒にごはんを作って食べよう」。病院では見せない笑顔を見せる人が増えた。「心の居場所」ができた人々は次第に元気になり、再発も減った。

やがて、一緒に作った料理を一般に提供するレストランに発展させることで、社会参加もできるように。テーブルームなどを作って「居場所」も増やした。

斉藤敏朗さん(33)はそんな「居場所」で救われた一人だ。小中学校でいじめを受け、高校卒業後の5年間、引きこもっていた。「家族に迷惑をかけている。社会に出なければ」と焦り、死ぬことばかり考えていたこともある。

松浦さんのテイルームを母親と初めて訪れたのは約10年前。入るまでは人と会うのが怖く、不安で、気分が悪くなるほど緊張した。「でも、

松浦さん(左)の活動には欠かせないメンバーになった斉藤さん。この日は市民館での講座を手伝った川崎市幸区

なんだか明るくて温かかった」。何度か通ううちに、少しずつ話せるようになった。

それまでは、人とのコミュニケーションが成功か失敗か、というところさえわからなかった。「失敗しても、次の経験につなげればいい」という松浦さんの言葉に救われた。今ではメンタルヘルスの講演などを数多く引き受ける松浦さんの活動を手伝っている。

家族らが早く回復させよう、職に就かせようと急いだ結果、命を絶った人もいる。「自分のペースでゆっくり自分をとり戻して」と松浦さん。「誰にも豊かな可能性がある。それを本人にわかってもらうため、周りの人は言葉でほめて、考えや行動を肯定することが大切」という。

シンポジウム「いのちを輝かせるために」は11日午後2時から。松浦さんのパネルディスカッションは午後3時15分から。川崎市中原区の川崎市総合自治会館。無料。先着250人。問い合わせは主催のフリースペースたまりは(044・8333・7562)へ。

(斉藤博美)